

学校関係者評価報告書

学校法人名古屋大原学園
大原法律公務員専門学校津校
学校関係者評価委員会

平成 30 年 3 月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価となり、昨年度の自己点検よりも改善している。昨年度の自己点検では、評価項目のうち④「学校の理念等の学生・保護者等への周知」の項目に「やや不適切」と指摘されたが、今年度の自己点検では改善された。

【今後の改善方策】

④については、この 4 年間、課題とした項目で、学生や保護者に対し、学校長が入学式において学園の基本理念・教育目標・教育内容を説明している。そして、毎日のクラス朝礼や授業の時間に、学生に対し、クラス担任や授業担当教員が、理想の公務員像・入学目的等の教育内容を説明している。また、クラス担任が保護者に対し電話連絡を実施する際や、保護者・学生・クラス担任の三者面談を実施の際に、学園の教育理念・教育目標・入学目的・理想の公務員像について話し理解して頂いた。今後も、学生や保護者に浸透を図ることを継続していく。

なお、昨年度の学校関係者評価委員会において、「理想の公務員像の対象に、公共性の高い職業である国立大学法人職員や郵便局職員も含めてはどうか。」と指摘があり、その職業も含めて学校の育成人材像とする。

【関係者評価】

教育理念・目標について、自己点検・自己評価の結果は改善されているが、今後も時代に対応した、三重県の若い人材が県外に流出しない魅力ある「育成すべき人物像」の設定、そしてカリキュラムの工夫をしてほしい。また、警察官や消防官を目指す学生に、地域の安全を守る自治会活動にも参加して、地域への貢献意識を養うことも学校の特色にしてほしい。

2. 学校運営

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は 98%であり、昨年度の自己点検の割合 100%より下がっている。評価項目のうち⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目で「やや不適切」との指摘があった。

学生管理（成績管理、出欠管理、就職管理、証明書発行など）や財務管理について情報システム化が図られているが、昨年度より、新しい学生管理システムが導入され書類の作成や発行について効率化を図った。新しいシステム運営が円滑にできるように、職員に浸透させていくことが課題である。

【今後の改善方策】

⑧について、昨年度、導入された新システムの職員への浸透をより図るために、職員の新システムの理解を深める研修を実施する。

【関係者評価】

自己点検・自己評価については特に問題ない。ただ、新しい学生管理システムの導入で、効率的でないパソコンの作業が増える場合もあるので注意してほしい。また、SNSによるトラブルやいじめが社会的な問題となっているため、そのような問題が起こらないように学生へ指導をしてほしい。

3. 教育活動

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は99%であり、昨年度の自己点検よりも改善している。ただ、評価項目のうち1項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、⑫「関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するマネジメントが行われているか」についても「やや不適切」と指摘されたが、今年度の自己点検でも「やや不適切」の評価意見があり、優れた教員確保が引き続き課題である。

【今後の改善方策】

⑫について、学生が将来、就職先と考える公務員等の業界団体である県庁・市役所・消防署・自衛隊・NPO法人等に働きかけて、講演を依頼していく。

【関係者評価】

社会経済のニーズに合わせたカリキュラムの作成・見直しや教職員の指導力向上に取り組んでいる点は評価できる。ただ、教職員の能力向上のため、ビジネス系資格取得に加え、教職員も短期のインターンシップやボランティア活動に参加することで教育に深みが増すと考えるので検討いただきたい。また、最近の災害救助の現場ではドローンを利用することが検討されている。警察官・消防官・自衛官を目指す学生に、ドローン操縦に関する民間資格の取得するカリキュラムも検討してもらいたい。

4. 学修成果

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は87%で、昨年度の自己点検と同じ位の数値になった。評価項目のうち2項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について「やや不適切」と指摘されたが今年度の自己点検でも「やや不適切」との評価意見が多く課題とされた。昨年度は、平成29年3月卒業生の就職状況を専門課程総合案内書や学校の掲示版に掲載し、学生や入学希望者へ進路選択情報として提供した。また、官公庁に勤務した卒業生を学校に招き、官公庁の様子や仕事のやりがいを話してもらう機会を設けた。今後も、学校と卒業生の連携をより密にし、卒業生の活

躍状況を把握することが課題である。

今年度の自己点検で、③「退学率の低減が図られているか」について「やや不適切」と指摘された。今後、クラス担任や授業担当者が悩みを持つ学生と面接等を通じて接する機会を増やしていくことが課題である。

【今後の改善方策】

③については、平成 29 年度、クラス担任や授業担当者が学生個々の状況を把握し、悩みや進路について可能な限り、面接を実施した。また、7～8 月期に、希望する保護者について、クラス担任・保護者・学生の三者面談を実施した。これらの試みにより、平成 30 年度も継続して退学者の低減を図っていく。

④については、官公庁に一定期間勤務した卒業生を「業界で活躍する先輩」として学校に招き、官公庁の様子や仕事のやりがいを授業のなかで話してもらい機会を、昨年度より増やしていく。また、官公庁の人事担当者が来校された際、卒業生の状況について確認を行う。

【関係者評価】

公務員や民間企業に多くの卒業生を輩出していることは評価できるが、学校の就職指導が実社会とずれていないか確認するためにも、卒業生の早期離職率（卒業後半年以内の離職率など）を把握することをお願いしたい。また、地元三重県活性化のためにも、一人でも多くの学生に三重県内で就職し地域を支える人材になってもらえるような就職指導もお願いしたい。

5. 学生支援

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は 92%であり、昨年度の自己点検よりも改善している。評価項目のうち 4 項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、①「進路・就職に対する支援体制は整備されているか」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。公務員や民間企業就職指導は、クラス担任中心で行われているが、今後、就職サポート室との連携を強化が課題である。

昨年度の自己点検で、④「学生の健康管理を担う組織体制」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。学生が精神的な体調不良の場合の対処に課題が残る。

昨年度の自己点検で、⑤「課外活動に対する支援体制の整備」について「やや不適切」と指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。学生同士が交流できる課外活動の実施が課題である。

昨年度の自己点検で、⑧「卒業生への支援体制」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と多数の指摘を受けた。卒業生が学校を身近に、そして、母校愛を感じてもらえるようにしていくことが課題である。

【今後の改善方策】

①について、より学生の満足のいく進路・就職相談を実施するために、就職サポート室職員との相談できる時間を増やしていく。

④について、学生が精神的な体調不良の場合、学生や保護者と緊密に連絡を取るようになっていく。

⑤について、通常のクラスとは別の学科や学年を超えた交流の場として、課外活動としてバレーボー

ル大会などを実施していく。

⑧について、卒業生と学校との連携を強めるため、同窓会組織の設置を検討していく。

【関係者評価】

公務員や民間企業で活躍する卒業生は、就職を目指す在校生にとって心強い存在である。今後、さらに卒業生の支援体制の強化を考え、同窓会の設立を是非ともお願いしたい。また、学生のメンタル面のケアにも力を入れているようだが、教職員のメンタルヘルスの維持にも力を入れてほしい。

なお、津市内の近隣高校との連携が進んでいるようだが、今後も継続して近隣高校との連携を大切にしてほしい。

6. 教育環境

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価となり、昨年度の自己採点よりも改善している。

昨年度の自己点検で、②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制の整備」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検は改善された。平成 28 年度以降、税務職員志望の学生に、税務署のアルバイトで職場体験を実施してきたことや、平成 29 年度の自衛隊生活体験実施が評価意見となった。

【今後の改善方策】

②のインターンシップ（業務体験含む）について、今後も税務署や自衛隊以外の官公庁でも実施できないか検討する。

【関係者評価】

在校生が税務署のアルバイトとして職場体験を行ったことは評価でき、今後とも継続してほしい。また、災害時に迅速に避難や情報開示ができるように、防災マップの作成や防災訓練の実施をお願いしたい。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の割合は、昨年度の自己点検と同じ 100%である。

【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、②「教育成果は正確に伝えられているか」について、昨年度に引き続き、速やかに学校のホームページに掲載し、出身高校等へ伝え、募集活動に結び付けていく。

【関係者評価】

自己点検・自己評価が適切に行われており問題はない。なお、今後も、三重県内の公務員試験の地域一番校を目指し、三重県内の役所に就職できる学校として、広報活動にも力を入れてもらいたい。

8. 財務

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の割合は、昨年度の自己点検と同じ 100%である。専門課程入学者は一定数おり、学校の財務基盤は安定している。

【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、中長期的な学校の財務基盤安定のため、入学者数増加を図る必要があり積極的な募集活動を今後も実施していく。

【関係者評価】

自己点検・自己評価が適切に行われており問題はない。今後も適切な会計処理、情報公開を行ってほしい。

9. 法令等の遵守

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価となり、昨年度の自己点検と同じ 100%である。

【今後の改善方策】

④について、今後も自己点検・自己評価を継続的に実施し、「やや不適切・不適切」と評価された問題点は、年3回、学期末に開催される職員会議で各職員共有し改善をしていく。また、自己点検・自己点検の結果は総括して学校ホームページで公開している。そして、公務員や卒業生等外部の関係者で組織する学校関係者評価委員会に報告し、関係者による評価を受けている。

【関係者評価】

平成 29 年 5 月に初めての自己点検結果に基づいた学校関係者評価委員会が開催された。今後とも、学校関係者の意見や評価結果の前向きな改善をお願いしたい。また、現在、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントが注目されている。学校において問題とならないように、思いやりや配慮を持って行動してもらいたい。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価割合は 91%であり、昨年度の自己点検と同じ位の数値になった。評価項目のうち2項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、③「地域社会に対する公開講座・教育訓練受託」について「やや不適切」との指摘あり、昨年度、学校の施設で、初心者対象の名言の説明会である「人間学読書会（無料公開講座）」を年5回開催した。今年度の自己点検でも「やや不適切」と評価意見があり、学校内で地域に貢献する企画の実施が課題である。

今年度の自己点検で、①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」について「やや不適切」と指摘された。学生・学校と地域の住民の交流など地域と共存する学校としての社会貢献・地域貢献することが課題である。

【今後の改善方策】

①について、町内会等に校舎の貸出をしている。今後も、地域の住民の災害時における校舎利用が考えられるため、防災計画と合わせて配慮し、できる範囲内での協力を行っていく。

③について、地域の方が利用する資格試験受験会場、高校入学試験会場や大学入学試験会場としての校舎利用を積極的に進めていく。

【関係者評価】

学校のある津市大谷町の住民は高齢化が進み、今後災害時の避難・救助に危機感を感じている。可能ならば、大原の若い学生に地域の防災訓練に参加してもらえると心強いので検討いただきたい。

学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	中嶋 年規	三重県議会議員
委員	新山 英治	元 高宮小学校校長、大谷町自治会長
委員	伊藤 達也	国立大学法人三重大学 学術情報部